

## 第一節 真実の神

### 幸福の実現に向けて

#### 人としての生きる目的

人間はだれしも、仕合せな毎を送りたいと願っているものです。いつも心に不安がなく、明るい気持ちで生活したいのが、万人の願いです。言い換えるならば、物質面においても、精神面においても、豊かな安らぎのある生活、また自身が社会に寄与できる生きがいのある生活、そしていつも健康で、明るくて、楽しい生活、そのような毎を送ることが、人としての生きる目的であると、神はお教えくださいます。

#### 現実の人々の生活は

しかし、そうした人生の目的とは裏腹に、人として生きていく上では、さまざまな悩み、苦しみがつきまとうのも現実です。健康面において、あるいは経済面において、また社会生活はもとより、一番心が安らぐ場でなくてはならない家庭生活においてまで、悩みを抱えてしま

ます。

#### 大山祇命の降臨の意図

そこで、だれもが明るく、楽しく、笑顔で暮らせる社会にするために、一人ひとりの命の源である大山祇命がこの世に降臨され、代神を通して神示教会をつくられ、直使を通して真実の幸福を得る道をお示しくくださったのです。神は、このように表されています。

#### 神 示

お教え申し上げます

神の信者で にっぽん 日本<sup>にっぽん</sup>の地を染めねばいけない

心渴いた日本<sup>にっぽん</sup>の地に 神の愛 真実<sup>神の心</sup>の愛 今こそ説く時

心安らかな愛<sup>神の愛</sup>の真実を 悟りて 「まこと<sup>真実</sup>の人間」と申す

—— 神とともに道<sup>人生</sup>がある

人 皆 幸福求めて歩む

神<sup>佛光</sup>とともに道<sup>人生光</sup>がある ——

この真実を 日本国に根づかせたもう

「心 神にすがるとは 人としての「まこと」<sup>真実心</sup>と申す

人は、心で生きるものです。神は、人々の心が渴いている今の世に、真の安らぎがある、心の豊かな社会を実現させたいと、切に願われています。人々が何の不安もなく、いつも安心し